

内郷市の底辺を診断

国立精神研究所で社会調査

内郷市の中の底辺を診断

内郷市では國立精神衛生研究所の社会調査を十五日から始めた。これは市政時の昭和二十七年に調査、基礎資料として出来十周年のことが、全国でも初の診断ケースだけと注目されている。

この社会調査は第一回の準備として十五日の一日間になつて石炭鉱業労働者の現況、被験について、低所得階層の現況と問題点、医療衛生面の実態のほか、児童福祉、教育面の五項目の大代表者が集まつて話し合ひ、意見事項をまとめて衛生研究所へ送り調査内容の計画案を作成する。大月下、小名浜港は来年三月に作成される。

養毛を奨励

一年目には年収10万円

県石城事務所では養毛経営の奨励を図るために、酪農、小中家畜の飼育を奨励しているが、副業として手堅じきの養毛を呼びかけている。平市農協でも今年度は五百頭を導入する計画だが、県農連盟は百六十頭と予定し、飼育費を一百万円近くするので、一年目には年収十万円近くの調査によると、頭を飼育を上げらるといわれている。

内郷市では年間千頭が生産され、食肉用、皮用として出荷しても月平均一千頭の販売を上

げ得るといふ。三十頭飼育した場合、年間千頭が生産される。

内郷市は年間千頭が生産される。

内郷市は年間千頭が生産される

